

新浮繁昌記
八百八後家

後乃自見
全

分九寸三 分四寸五	コ テ	ヨ ク	紙 表
分一寸三 分五寸四	コ テ	ヨ ク	楷文本



序

越後新潟の港は其國第一繁榮の地にし
 て遠近の千船百舟繫船し奥羽信州はも
 ならず及ばず諸國交易の地にして甚盛
 也されば當地の名物は八百八後家と世
 にいふらし他の國までしらざるはな
 し八百屋後家と心得違いたすべからず
 當地は船頭又は近郷近國の集客多けれ
 ば後家にも色あり二米金をけたてば
 大人のもふけをなし或は甚九またおけ
 さとかいふ北まへのうたなどにて三線
 太鼓つゞみなどにてうたを踊る事さも
 ゆたなるべしすごしては鮭の名物當地
 ありとて三線お歌つゞみをもてはて
 甘九もいぢけもてはてはてはてはて
 大人のいぢけもてはてはてはてはて
 船頭又は近郷近國の集客多けれ
 ば大人のもふけをなし或は甚九またおけ
 さとかいふ北まへのうたなどにて三線
 太鼓つゞみなどにてうたを踊る事さも
 ゆたなるべしすごしては鮭の名物當地
 ありとて三線お歌つゞみをもてはて
 甘九もいぢけもてはてはてはてはて
 大人のいぢけもてはてはてはてはて

序

越後新潟の港は其國第一繁榮の地にし
 て遠近の千船百舟繫船し奥羽信州はも
 ならず及ばず諸國交易の地にして甚盛
 也されば當地の名物は八百八後家と世
 にいふらし他の國までしらざるはな
 し八百屋後家と心得違いたすべからず
 當地は船頭又は近郷近國の集客多けれ
 ば後家にも色あり二米金をけたてば
 大人のもふけをなし或は甚九またおけ
 さとかいふ北まへのうたなどにて三線
 太鼓つゞみなどにてうたを踊る事さも
 ゆたなるべしすごしては鮭の名物當地

川の隅を幸ひたり申すはるる魚はまじ
 しく六鯉乃名魚萌地乃川あり海
 他國の遠くは海へ濱せりゆらハ大
 乃魚鱒網と魚旅とをハともハ
 辰の年の辰の年と申すはるる魚

辰の年 初秋

筑紫 甘泉醉翁



の川にて漁し他國と違また濱邊に望
 めば大小の魚鱒網など漁賑しきはみな
 此集客後家の樂しみ思ひやるべし。

辰の年初秋日

筑紫

甘泉醉翁印

新かた後の月見

ものにあた名をおほすること。ひとの上のみならず。お初天神たみすく藥師。たこに天蓋がしの有名。年魚をかみそりとよぶ。かどに五木の柳をうゑて。五柳先生とよばれ。松を植しを栽松さうしやの道者と唱ふ。小奈の内府たふふを燈籠のおととよべば。良覺上人を榎木の僧正とよび。源語にゆひくひ。ひるくひのおふなのたぐひいとすく少なからず。此八百八後家も。あるひはその人のしなにより。またはわかれしひと有さまによりて。あた名をつくるなりけり。げてぬをやね石後家とよべば。てを巾着けんちやくこけ後家と名ずくるたぐひ。皆とくゆゑよしあれば。此まきをひらき見て。其よしをしり給へぬ。はなのいろまひしたるたをやめに競くらては。其俤いのやつれたれど。霜夜の床とこの寐覺ねざぶがちなるをりくりに。心をなぐさめ給ふみさわひにもと。なにがしの後家。それがしの後家と。かきあつめ。にひかた後の月見となすけて。一卷ひとまきのとぢふみとはなしぬ。

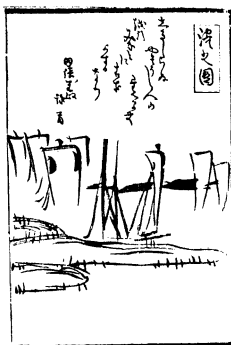
又ひるくひとよべば

凡例

○代四 夕上着は上田しま、袖着しま縮緬、地は重どんす、何れも美玉としり給ふべし

○代三 夕上着しまつむぎ、相着まわりむく、地はどんす、まいだれかけにて、女房きどりもあり

一後家連名不同にして順ならず、尤其さまいろ／＼千じや万別たるべし、玉高樓の御製民のかまどの鍋にはあらねど、みな富貴ひん福このしりにや有けむ、おもて家にて小女子などを遣ひ、いやしからぬもあり、うら家にてひそかに我家にて客とる、其ゆへ尋知り給へ



むすぶ談之圖

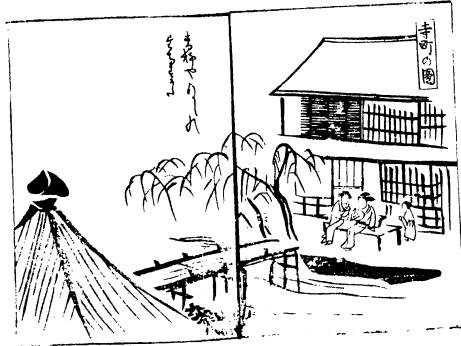


うさ虫ごけ、ちよんがれごけ、しほりごけ、これは箱屋よ、椎茸ごけ、禪寺より、じざり出づるなり、いごけ、かみすがらぼろずを一人、とちめんぼうごけ、摺鉢ごけ、やれこらごけ、角力取ごけ、鐵でもとらね、引だしごけ、徳利ば食われぬ

ごけ、きんちやくごけ、客をいれると、敦盛ごけ、これはもとほくまが、柳ごけ、類はあそぶ、小次郎にすが、柳の葉のどく、雲はほつそ、文人ごけ、これは女なれ、り柳ごけ、なれば、少づともよいかと頼政ごけ、佛供米ごけ、時ともつてこいと



ふい、どらごけ、十八里ごけ
 前からみてびつ九り、後か
 から見てもよい姿とびつ、おにかみごけ、燈
 九り合せて十八り也
 心おさいごけ 油屋より出、三味せんごけ
 づるなり



つねニ氣性高くして、西行ごけ、頼朝ご
 ひんしやんするゆへ也
 け美大將、北条ごけ、うろこ也、松露ごけ
 けなり

まつ山村よ、神とうごけ、狐ごけ よく客を
 さいづる也、す、さすがたごけ、火吹竹ごけ あたまた穴
 也
 あるゆ、甘味噺ごけ、三番夏ごけ 我客は外い
 へなり
 うも、樅ごけ、やぐらごけ、百日紅ごけ
 愛かざりはよけれ、み、すごけ 五はやさしう、
 ども着ものなき故、て、顔みせず
 白雲ごけ、荒熊ごけ、鯨節ごけ これは味、
 ある故也
 屋根石ごけ 客を、と、土びんごけ、
 本間ごけ これは、芋がしらごけ、里芋ご
 け、いもがらごけ 三人なり
 しごけ、往生ごけ、大名ごけ、かつば
 ごけ、夕立ごけ このなきけのニあふ人、さ
 かねごけ 古かね買よ、阿彌陀ごけ、なる
 者ニても頼むならば、そ、やげんごけ、やち
 むかねとの響風なり
 げたごけ、鐵の棒ごけ これはおにご、火元
 けの親類なり
 ごけ、牡丹餅ごけ、とくしんごけ、む
 めぼしごけ、七尺ごけ、天文ごけ、屏

風ごけ あまりニなるゆへ、樅ごけ 米やより、
 ほうだんごけ、田むらごけ、南京ごけ、
 けし炭ごけ、夏大こんごけ、なぐらご



け、棒嚙りごけ 此天祥商、くす蒲團ご
 け、見かけより、ないし、腰かちりごけ 此
 けよよくくしている、
 の、糞蟲ごけ、くねまたごけ、かう、

見月の後たか新



白山御供儀信長さま之圖

じごけあまりき、あい／＼ごけ、義經ごけ、潮來ごけ、とらごけ、赤玉ごけは鳥居の木、さどやごけ、ふじやごけ、閻魔ごけ（是はおにごけ、辻ばしごけ、しの地主なり）、助六ごけ、少ごけ、鑑ご

け、かぶとごけ、嵐ごけ（これは狩形にて奥のつぶれしゆへ）、まはたごけ、あしべごけ、獵人ごけ（太郎を殺したゆへ、大こくごけむせふニきづ、金時ごけとも）、ふり出しごけ（たわらや小じにて、元は醫者の女ほう也）、薬鑑ごけ（あまりやい故なり）、うしごけ（客をみると、海をたらすゆへ）



仲之圖

やにごけ（羅字のすげかへ、けら／＼ごけ、よりいづるゆへ）、かなげごけ、魚のめごけ、七尾ごけ、火うちごけ（あまり憎くつて、瓜ニ火をとます）、張抜ごけ（表はれは空也。なまくらごけ客ニなしむと、はな紙ごけ、けや木ごけ氣がせ、先ふれごけ）

西苑遊美本見
今此抱き其件
毛真新天即是
點守會云後徒
五れ
十妻麻

もとば飛脚、蜜柑ごけよく客ニ身の皮を、た
いの女房也 むかれるやつき

いごごけ少し気が足らぬゆ、青表紙ごけいし
なり つかいりき

女房、串柿ごけ いろは黒いけれど、から
つくりと甘味が有

かさごけ り、らほり、鳥の骨ごけ 叩く
騒し、はべんごけ 年寄のくいものニは、骨
がなくて、柔らかで吉

宇治ごけ 人がないふても、
よく茶にする故

むせう 人の氣を、あきだ
ひへて見たがるゆへ、空俵ごけこれしゆへなり
桶のぼうこんごけ 村上の山しゆへ、たばこ
こなごけ 人がめつたニ、時のかねごけこれ
好物ニて、人時、た、みごけ いかなる人
度、か、かる、た、みごけ も皆うちか
へす故、うちをかへせ、線香ごけよく焚すへ、
ば、よく用な代物也

玉子ごけ おやが仕切と、弓ごけ あまり張が、
りゆくなり

くさごけ 客ニ身打、雪ぐつごけ これは顔の、
名剣ごけ 此はよつほど口も切れ、
似たるなり

名剣ごけ し、敷いたる代物なり

んごけ 客は、さつ、鞘割ごけた
か

せ、鯨ごけ これはやみくもニ、人があ、猿ごけ
これよくむせうニ、人をかきのめす、
外科醫者ごけ を用ひて
容をと、關取ごけ 此はなり、立くすごけ
ゆへ、

これはたひよ、天狗ごけ これは鼻の、羊ごけ
りいでしゆへ、
これは、たぬきごけ これはきん玉、鼠穴ごけ
紙や、
そらでござります

あき枝ごけ これ座頭の内を、
離縁したゆへ、
あきだるごけ これ酒やより離縁
半分白し、
元はあいのもの、人丸ごけ いっ
一人、ねて、
はたけごけ よいも悪いも、
ぬきごけ、
廣ぶたごけ なんでも無性、
なぞ
しはたかぼちや、
あたごごけ、
かみくすご
け、
朝比奈ごけ おにどごとく口論、
高麗犬ご
け これは天神ごけの、
辨慶ごけ 切をすの千人、
脇ニすむゆへなり、
なすびごけ、
のぞきごけ これははかりの
事也、
客

いるぞれ御あふじる、てん神ごけ これはみな様
ばや四郎兵衛と申、
かんなごけ 今は大工のか、
あ、
があるいさうだ、
くじらごけ、
つるべごけ、
寶來ごけ 家名
やといふゆへ、
蛭ごけ むせふニ客とこひ、
輕
名附たと見ゆる

業ごけ、
鶯ごけ、
南天ごけ、
姫糊ご
け 一たんは何もかもよくつくけれど、
きらすご
け とすれば虫くい出来てはなれる、
きらすご
け 豆腐やよ、
蓮華ごけ、
とろめんごけ、
赤桿ごけ、
熊手ごけ むせふニか、
おたふ
くごけ、
納豆ごけ はすこし、
物さしご
け 客ニせうのある、
山のいもごけ こいつはの
よふ、
報謝ごけ 心ざし、
かにごけ 手がたん
と有てん

しからぬ瓜か、
龍頭ごけ これその、
御本山
長イそうだ、
ごけ 時ニ客のほらへ、
せんきごけ、
かんぞ
うごけ 少あまい、
茶
ごけ、
ほし大こ
んごけ、
お六ごけ、
口中ごけ、
どしや
ごけ 客はくにやくとする、
かいらぎごけ
せ、
たも、
火元ごけ なるゆへ、
からや

こげ、赤銅こげ が四分一は、とび口こ
ゆへなり
 け、遠方こげ 少し耳がとふ、かみしもこ
きゆひなり
 け、瓢こげ べらぼうニし、坊主こげ、さつば
りが大きい
ニ、み、こげ 人のいふ事を、膏
ないゆへなり
 薬こげ たりくと、ハツめこげ、はや
ゆへ
 おげこげ くれると、菅笠こげ、このこげにて
くゆへか、よく若衆が内
かぶる、そばこげ、げたこげ、水がめこ
ゆへ也
 け むせふニ
とい ゆへなり、和藤内こげ とらとい
ふ亭主ニ
 わかれた、鐵砲こげ てっぽう
も ぶてこぎり ます
上

二編 近刻
 角力 一教摺 近刻

